



TEACHING ENGLISH NOW

英語教師のための情報誌

特集 スピーキング力を伸ばす

巻頭エッセイ

カタカナ表記の名前に思い込み 大石芳野 01

特集

スピーキング活動について

— スピーキングのプロセスとコミュニケーションの点から — 酒井英樹 02

日常の授業の延長線上にあるスピーチ活動 溪内 明 06

即興でのスピーキング活動(チャット)の指導法 今堀志津 08

スピーキング指導における評価について 田中武夫 10

連載

英語教師のための基礎講座 研究授業用の指導案の書き方 松沢伸二 12

評価クリニック リスニング・テスト作成の心得 根岸雅史 14

授業レポート 「わかる」授業づくりを目指して 井上志帆 16

小学校英語 Just Now 相互理解、豊かな表現力を育てる英語活動の実践 小野鉾司 19

単語の文化的意味 71 culture 森住 衛 21

英語教師のリソース 4コマ漫画の活用! 立花千尋 23

AROUND THE WORLD インドのことはめぐるあれこれ[3] 藤井 毅 表紙裏

表紙写真について スイスの首都ベルンにて 青柳有季 表紙裏

Vol.13

FALL 2008
SANSEIDO



日本英学史とインド：遠くて近い関係

明治10年代から20年代にかけて、本邦で英語や歴史を学ぼうとした人々が、こぞってイギリスの文人マコーレー (Thomas Babington Macaulay, 1800～1859) の著作を読んだことは、日本英学史では、よく知られている事実なのだろう。実際のところ、この間に刊行された翻訳や注釈書などは、各種の版を計上すれば、30点を優に越える。もちろん、それは、イギリスにおける彼の文声を受けてのことであつたが、興味深いことに、その大部分が、インドを題材としたものだったのである。

マコーレーは、英学史では特に関心が向けられてはいないようだが、インド滞在歴を有していた。その時期に彼が果たした役割は、インド近代史において、必ず論及されるほど、重要な意味を持っていたのだった。

19世紀初頭、インドとイギリスの双方において、植民地支配において依拠すべき言語の選択をめぐる、大論争が起こっていた。それは、もっぱら、高等教育の媒介言語をめぐる議論として展開されたが、「文明化の使命」の達成と安定した支配の確立という共通の前提に拠っていた。その論議において、サンスクリット語やペルシア語といった規範的な価値を有する在来言語を推した人々は、オリエンタリスト (東洋語論者) と呼ばれ、

一方、英語至上主義の人々は、アングリシストと呼ばれていた。わけでも後者は、英語こそが普遍的価値を内包することを確信しており、それを共有する「色の黒いイギリス人」を階層として生み出すことを企図していた。

一連の議論のなかで、決定的な役割を果たしたのは、他ならぬマコーレーであった。総督参事会の法務委員として、1834年にインドに着任していた彼は、アングリシストの立場を体現した覚書 (1835年2月2日付) を提出し、それを受けて、当時の総督ベンティンクは、英語の卓越を定めた決議 (3月7日付) を発したのである。それ以降、英語能力そのものが、社会的地位と一体化していったのだった。

明治期の日本において、マコーレーの著作に親しんだ人々は、こうした事情をどこまで把握していたのだろうか。そもそも、そこで取り上げられている事象は、インドに関するかなりの知識を持たないかぎり、容易には理解できないものばかりである。

マコーレーへの関心は、昭和初期にかけて衰微していったが、1942 (昭和17) 年8月に参謀本部がインド侵攻作戦を企図すると、敵性言語として英語が排除されるなかで、僅かながらに甦ったのは、何とも皮肉なことであった。

表紙写真について

スイスの首都ベルンにて

青柳有季 Aoyagi Yuki (東京学芸大学附属小金井中学校)



スイスの首都ベルンの旧市街は、ユネスコの世界遺産に1983年に登録された美しい街です。使用言語はドイツ語ですが、街の至る所ではドイツ語と英語の標識が並んでいます。

ベルンの街の語源は熊 (独: Bär) から来ていて、州の旗は熊の紋章です (写真)。写真の“Bärengraben”の標識は、「熊公園」のことです。実際には熊は2頭見かけましたが、ベルンのシンボルとして「熊公園」は市民や観光客で賑わっていました。

ベルンは時計塔や大聖堂などの建

造物が点在する街で、中世のたたずまいを感じながら街歩きを楽しむことができます。また、旧市街を赤いトラム (路面電車) が走り、おしゃれなショップも立ち並ぶなど、歴史と現在が共存している都市でもあります。

Lauben と呼ばれる石造りの6kmに及ぶアーケードには、彫刻が施され、花に彩られた個性的な噴水が至るところに点在しています。また、毎時4分前になると、時計塔の周りには人が集まり、からくり

時計の兵士や熊の仕掛けを楽しみに見上げています。

市場では、パン、魚、肉、野菜、フルーツ、ワイン、お花などの屋台がゆったりと立ち並んでいます。

店主が常連のお客との会話を楽しみ、お客もエコバッグを片手に新鮮な食材を手にしていました。印象的だったのは、お花屋さんのデコレーションです。シンプルかつ無造作な切花で、愛らしいスイス色豊かな花がひと束ひと束丁寧に銀色の壺に入れて飾られていたのが気に入りました。



巻 頭 エ ッ セ イ

カタカナ表記の 名前に思い込み

大石 芳野

Oishi Yoshino

言葉は文化だからどの民族の言葉も実に複雑で難しく、発音やその表記法も入り組んでいる。その通りに発音しているつもりでも、子どもたちの率直な笑いに包まれてしまうことがある。

1981 年以来、たびたび訪れているベトナムでもしかりだ。例えば「ありがとう」の「カムオン」。これは「感恩」という漢字だったのがフランス植民地時代にアルファベット化が進んで今日に至ったらしい。だからどの文字にも、上や下に発音記号の点、山、波などを付けて語意の違いを表示している。

けれどカタカナで表記するとどれも同じになってしまうことが多い。人名はさらに分かりにくく、「チュンさん」といってもいくつもの「チュン」の音と表記があって、男性、女性、意味などさまざまだ。箸と橋、砂糖と佐藤など、日本でも同じことがいえるから、ベトナムも日本も漢字文化の民族としては仕方がないことと思っていた。

ところが、漢字からほど遠いドイツ語でも同じようなことがあって、恥をかいたことがある。英語もフランス語もスペイン語なども、日本語のカタカナで書けば、どれもそういう曖昧あいまいなことになる。ちょっと考えれば当たり前のことだ。ところが、外国語に疎いわたしのカタカナで表示されたものへの思い込みは恐ろしいほどのものがある。

恥をかいた名前は、ドイツ語の「ルドルフ・ヘス」だった。この名前が第二次世界対戦中のナチス軍の幹部と特定されれば、わたしにとってはアウシュビッツ強制収容所の責任者のことでしかない。彼は戦後、同収容所で大勢の囚人たちが見守るなかで絞首刑になった。

ところが、ナチス軍の幹部でも、発音は同じだがスペル違いでもう一人いたのである。このもう一人

の方がヨーロッパでは、一般的にはもっと有名だったようだ。

アウシュビッツなどに象徴されるナチス強制収容所を生き延びた人たちを、わたしは 1986 年から何年間もポーランドに通って取材を重ねた。専門的に研究している研究者や学者などの話にも興味を抱き、たびたび訪ね歩いた。そのなかで語られた「ルドルフ・ヘス」は一人しかいなかったと思うし、関係者たちにとっては絶対に忘れられない名前である。彼は「ヒットラー」に続いて許し難い代名詞のような存在の人物だ。取材を重ねていくうちにいつの間にかわたしも影響されて、「ヘス」と見聞きしただけで、瞬間的にその人物を思い出すようになっていた。けれどよく考えると、重複した名前はいくらでもいる。有名、無名にかかわらずに。

もう一人のスペルが違う「ルドルフ・ヘス」は、ヒットラー総督の最も信頼される側近の一人で、ナチ党副総統だったのである(後に実権を失った)。

「カムオン」や「チュンさん」に始まってカタカナ表記に甘んじていたわたしにとって、「ルドルフ・ヘス」の失敗は起こるべくして起こったのかもしれない。カタカナ表記の持つ危うさを意識しながら外国語と付き合わなければならないことを強く認識させられた。

おいしい よしの

東京都出身。大学を卒業後、ドキュメンタリー写真に携わり今日に至る。戦争や内乱、急速な社会の変容などによって傷つけられ、苦悩しながらも遅く生きる人びとの姿をカメラとペンで追っている。著作：『夜と霧は今』、『カンボジア苦界転生』『HIROSHIMA 半世紀の肖像』、『ベトナム 凜と』、ほか多数。受賞：芸術選奨(文部大臣新人賞)、児童福祉文化賞(大賞)、土門拳賞、ほか多数。

スピーキング活動について

— スピーキングのプロセスとコミュニケーションの点から —

酒井英樹

(信州大学)

1. はじめに

スピーキングの活動について考えるとき、少なくとも、スピーキングのプロセスとコミュニケーションという2つの点を考慮する必要があると考えています。あるスピーキング活動において、どのようなスピーキングのプロセスが行われているのだろうか、また、コミュニケーションは成立しているのだろうか、ということを検討するのです。本稿では、まず、スピーキングのプロセスとコミュニケーションについて概説します。そのあとで、この2点に基づくスピーキング活動の分類を提案します。そして、それぞれのタイプの活動について、指導上の留意点や発展のさせ方を紹介したいと思います。

2. スピーキングのプロセスとは

スピーキングのプロセスは、大きく3つの段階に分けることができます。何を言うかを考える段階、そのメッセージをどのように言語表現するかを決める段階、そして実際に音声化する段階です。それぞれ概念化、言語化、そして調音化と呼ばれています。

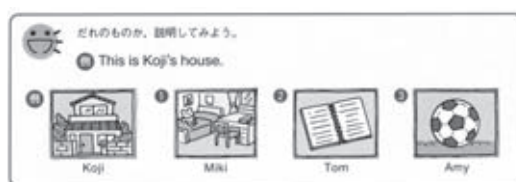
スピーキングでは、時間的制約の中で、これらのプロセスを同時進行的に行わなければなりません。生徒にとってチャレンジングな活動は何かというと、自分で言いたいことを考え(概念化○)、どのように言うかを決め(言語化○)、実際に時間的制約の中で言わなくてはならない(調音化○)活動ということになります。一方、NEW CROWN CHECK ITの「話してみよう」のような活動は、絵によって何を言うかが指定され(概念化×)、「聞いてみよう」の活動の中でどのように表現するかが指定されている(言語化×)活動(調音化のみ○)と考えることがで

き、比較的容易であるといえます。

3. コミュニケーションとは

コミュニケーションとは何かという定義については、一致した見解を持つことは不可能であると言われるくらい、関係する要素はたくさんあります。ここでは、単純化した見方を採用したいと思います。コミュニケーションとは、送り手と受け手の間でメッセージがやりとりされることである、という考え方です。現行の学習指導要領の中で、話すことの内容として、「(ア)強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴に慣れ、正しく発音すること。(イ)自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すこと。(ウ)聞いたり読んだりしたことについて、問答したり意見を述べ合ったりすること。(エ)つなぎ言葉を用いるなどいろいろな工夫をして話が续くように話すこと。」という4点が挙げられています。(ア)を除き、どの言語活動も相手の存在があり、コミュニケーションの成立を求めているといえます。

ただし、スピーキングの活動であっても、コミュニケーションが成立していないことが多々あります。NEW CROWN 1 Lesson 2 ①の「だれのものか、説明してみよう」という活動は、話し手とメッセージ(だれのものかという説明)は明示されていますが、聞き手の役割があいまいです。



ここで、生徒を立たせて、各自4つの絵につい

て英語で説明するように求め、終わったら座らせるという活動をさせたとします。この活動は、スピーキングの活動ですが、聞き手の存在があいまいであり、一方通行の表現活動で終わってしまっています。その点で、コミュニケーションは成立していません。もし、生徒をペアにして、一人に1枚の絵を選ばせて、説明させ(例: "This is Amy's ball."), もう一人に相手が説明している絵を特定させたとします(例: "No.3."). この活動では、話し手と聞き手が存在し、きちんとメッセージの授受が行われていますので、コミュニケーションが成立していると考えられます。

4. スピーキングの活動の型

スピーキングのプロセスとコミュニケーションの2点から考えると、スピーキングの活動は大きく4つに分類できると思います。次の表をご覧ください。

		コミュニケーション	
		成立していない	成立している
スピーキングのプロセス	容易 (単独の処理)	A (例: 本文の音読)	B (例: インフォメーションギャップ活動)
	複雑 (複数の処理)	C (例: スピーチ, Show & Tell)	D (例: 自由会話, ディベート)

スピーキングの活動をさせるときは、この4つのタイプの活動をバランスよく扱っていく必要があると思います。そのためには、各タイプについてよく理解しておく必要があります。次節からは、タイプAからタイプDまでの活動についてみていきます。

5. タイプA: 本文利用型

タイプAの多くは、何を言うべきかという内容があらかじめ設定されていたり、どのように英語で表現するかということが決められていたりすることによって、スピーキングのプロセスの認知的負荷を軽減しています。本文の音読、暗唱、役割練習(生徒が対話文を読みあう活動)、ピクチャーカードを見ながら本文を再生する活動などが含まれます。

タイプAの活動を行わせるときの留意点を述べたいと思います。ポイントは、テキストで与えられ

ている英語について、あたかも自分がそのメッセージを作り出し、自分が表現しているかのように考えさせることです。NEW CROWN 1のLesson 2 Ming's Houseを例にして説明します。久美がエマと一緒にミンの家へ遊びに行く場面です。

Kumi: ① This is Ming's house.

② Hello, Ming. ③ This is Emma.

④ My friend.

Ming: ⑤ Hello, Emma. ⑥ Hello, Kumi.

役割練習では、本文の英語を覚えて、セリフを言うという活動をします。そのときに、状況(どこで話しているのか)を具体的に想定させ、登場人物の立ち位置を考えさせ、視線や動作もつけさせるのです。①の英語を言うとき、久美はどこにいて、どんな姿勢なのでしょう。Thisと言っているので、ミンの家のすぐそばまで来ていると推測できます。エマと久美は一緒に歩いてきたわけですから、おそらく並んでいたと考えられます。ミンの家のところまで来て、エマに説明するために、家に近づき、エマに振り返って、"This is Ming's house."と説明しているのかもしれませんが。あるいは、二人並んできたわけではなく、久美の方がリードして、エマを案内してきたのかもしれません。というのは、③と④の"This is Emma. My friend."と久美がミンに紹介していることから、エマとミンは初対面であるとわかるからです。エマは初めて会うミンに不安を感じていたかもしれません。そう考えると、⑤のミンの"Hello, Emma."という一言は、ミンとエマが友だちになる第一歩の重要な挨拶であったことがわかります。"Hello, Emma."というとき、ミンはエマの方を見て微笑んだかもしれません。テキストには書かれていませんが、エマだって"Hello, Ming."と挨拶したはず。このように、生徒に場面や登場人物について考えさせ、動作をつけて英語を言わせることで、機械的な調音化の練習ではなく、発音やイントネーション、ポーズなどに気持ちを込めて音声化する練習へと変わります。

タイプAの活動は、だれに対して何のために話しているのか(あるいは、聞き手は何のために聞くのか)という目的を明確にすることによって、タイプBの活動に発展します。また、本文を利用しな

がらも、自分で伝える内容を考えて英語で表現することによって、タイプCの活動に発展します。*NEW CROWN 1* Lesson 6のUSE IT 1「友だち紹介」を取り上げます。この活動では、「洋が外国^{ひろし}人講師の先生に友だちの写真を見せて紹介しています。例にならって、洋になったつもりで友だちを紹介してみよう。」という指示と、“This is a picture of my friends. This is Yasushi. He plays baseball. He likes it very much.”という例と、スポーツの道具や楽器を持った5人の絵が与えられています。



この活動をタイプBに発展させます。ペア活動にして、一人には教科書を見させ、もう一人には名前の部分を消した絵を与えます。友だちを紹介してもらいながら、名前を記入するように聞き手に指示をします。このようにインフォメーションギャップ活動に発展させることができます。



あるいは、タイプCに発展させることもできます。生徒に友だちの写真を持ってこさせて、洋のように友だち紹介をさせます。これは、言う内容や表現方法を自分で考えなくてはならないので、タイプCに該当します。

6. タイプB: インフォメーションギャップ型

タイプBの活動は、いわゆるコミュニケーション活動ですが、「例にならって対話をしてみましょう」というモデルや、絵や表が与えられ、言う内容やどのように表現したらよいかということがあらかじめ決められている活動です。*NEW CROWN 2*

Lesson 5 Speech — “My Dream”では、USE IT 1で「将来の夢を話してみよう」というインフォメーションギャップ活動があります。「例にならって、将来どんな職業につきたいかを友だちに聞いて、その結果を下の表に書いてみよう。」という指示があり、例として、

自分: What's your dream?

由美: I want to be a teacher.

自分: That's nice.

というモデルが与えられています。

タイプBの活動を行わせるときの留意点を述べます。モデル対話のあるインフォメーションギャップを行うと、実際には生徒はどんどんとセリフを省略してしまいます。これは、相手が何を言うか、また、どんな表現で言うのか、モデル対話によってわかっているからです。つまり、teacherなのか、doctorなのか、あるいは別の職業なのか、という部分だけが新情報であり、そこだけやりとりできれば活動が達成できます。相手が、“What's your dream?”と言うべきところを、“What do you like?”と間違えて言ってしまったとしても、気づくことなく、“I want to be a teacher.”と答えることができるでしょう。つまり、インフォメーションギャップの部分だけはコミュニケーションが成立しているのですが、他の部分はコミュニケーションが成立していないということになります。この問題を打破するには、モデル対話の中に、3つぐらいの質問(“What's your dream?” “Do you want to be a teacher?” “What are you going to do in the future?”)を提示し、どの質問をしてもよいと指示を与えるのです。そうすると、質問に応じて答えなくてはならないので、しっかりと聞くようになります。

タイプBの活動から、モデル対話をなくし、自由に話すように指示を与えれば、タイプDの活動へと発展します。

7. タイプC: スピーチ型

タイプCの活動には、スピーチやShow & Tellの活動が含まれます。このタイプの活動は、自己表現を主目的にした活動とも言えるかもしれません。

自分のことについて考えて、どのように表現するかについてはテキストの表現を参考にして、発表を行います。*NEW CROWN 3*のDO IT WRITE 1の「^{せんす}扇子」を説明してみようという活動では、自分が紹介するものについて英作文したあとで、スピーチをする発展活動があります。モデル文を参考にしながら、自分が伝えたい内容を表現していく活動です。

タイプCの活動を行わせるときに気をつけたいことは、「扇子」の活動のように、概念化（何を言うかを考えること）と言語化（どう言うかを考えること）のプロセスをライティングによって行うことが多いため、時間的制約のない活動になってしまうことです。また、プレゼンテーションのときには自分のペースで用意した原稿を読み上げることができますので、調音化のプロセスも比較的時間のプレッシャーがない状態で行われます。そこで、時間的制約のあるスピーチ活動を行わせることも必要です。「扇子」の活動で、各自が選んだものについてスピーチ (planned speech) の発表会を行います。そのあとで、それぞれが選んだものの名前をカードに書きます(例: *Yukata, Fireworks, Furin, Sensu* など)。そして、1名指名してカードを引かせます。その場でそのカードに書かれたものを英語で説明するように指示します。これは言ってみれば即興的なスピーキング活動 (impromptu speaking activities) です。スピーチのあとで行えば、友だちが発表した内容や表現を参考にすることができ、認知的負荷を軽減することができますし、唐突にこのような即興的な活動を行えば、時間的制約の中で概念化・言語化・調音化をさせる練習をさせることになります。

タイプCの活動は、聞き手の役割があいまいです。「自分の夢についてスピーチをしよう」というスピーキング活動はよく行われますが、何のためにスピーチをするのか、また、聞き手はいろいろなスピーチを何のために聞けばよいのか、という点が不明なことが多いです。この聞き手の役割を明確にすることによって、コミュニケーションを成立させ、タイプDへと発展させることができます。例えば、上記の即興的な活動で、他の生徒たちに説明されているものをあてさせれば、聞き手の役割がはっきりし

ますし、話し手も聞き手にわかりやすいように説明しようと努力できます。

8. タイプD: チャット型

タイプDの活動は、いわゆるタスクです。チャット型活動としましたが、少し誤解を招いてしまうかもしれません。チャット型活動という名が指し示すよりも幅広い活動を含みうると考えるからです。時間を共有して会話を楽しめればよいというような自由会話活動、問題を解決するために話し合う活動、あるトピックについて様々な点から検討するディベート、役割と状況だけ決まっているロールプレイングなどが、タイプDに分類されます。いずれにしても、生徒は概念化・言語化・調音化というプロセスを時間的制約の中で行っており、話し手だけでなく聞き手の存在が明確であり、2者の間で情報の授受が行われることがタイプDの活動の特徴です。

タイプDの活動を行わせるときの留意点は、中学校1年生の段階から少しずつこのタイプの活動を行わせることです。生徒によっては、単語だけでコミュニケーションするかもしれませんが、または複雑な英文をつくるかもしれません。あるいは、ジェスチャーなどの非言語的な手段に頼って活動を行うかもしれません。この活動の利点は、実際のコミュニケーションに近い言語行為を生徒に体験させているということです。実社会に出たら、自分の持てる力を最大限使うしか方法はありません。タイプDの活動は、まさに自分の持てる力を十分に発揮する練習をさせているといえます。

英語教師としては、生徒の力を評価する良い機会にもなります。タイプA, B, Cでは、テキストやモデル文が提示されているため、生徒が独力でどの程度の英語力を持っているのかが見えてきません。タイプDの活動で、生徒の力を見極め、その後の指導に活かしていくことができます。

9. おわりに

スピーキング活動では、どのようなスピーキングのプロセスを行わせようとしているか、また、コミュニケーションが成立しているかという点を教師として自覚しながら活動させたいものです。

特集 スピーキング力を伸ばす

日常の授業の延長線上にあるスピーチ活動

溪内 明

(東京都足立区立第十中学校)

1. はじめに

私はスピーキング指導のゴールの1つを、人前で自分の意見や感想などを自信を持って発表ができることとしている。

具体的な活動としては、教科書本文のリプロダクションとスピーチを発表活動の中心としている。スピーチは生徒があらかじめ原稿を作成して、それを暗誦して発表する prepared speech である。絵・写真、実物などの資料を示しながら発表する Show & Tell の形式を基本に行っている。ただ暗記した英文を話すだけの発表よりも、提示物がある方が、話し手にとっては発表がしやすいし、聞き手にとってはスピーチの内容が理解しやすく、親しみのあるものになるからである。

2. 日常の授業の延長線上にあるスピーチ

スピーチは唐突に行う活動ではなく、教科書を中心とした学習活動や言語活動(日常の授業)の延長線上にある活動として位置づけている。スピーチの指導だけに多くの時間は使うことはできない。教師にとっては、日常の授業で指導していることがスピーチ指導に活かせることが大切である。そうすれば、生徒にとってもスピーチに取り組みやすくなる。

日常の授業からスピーチに至るまでには、次のようなステップをふんでいる。

- (1)教科書本文のオーラル・イントロダクション
- (2)教科書本文の音読
- (3)教科書本文のリプロダクション
- (4)スピーチ(Show & Tell)の発表

(1)(2)については説明の必要がないと思うが、(3)のリプロダクションとは、音読練習を終えた(read

& look up まで終わらせた)あと、教科書本文の英語を板書した key words を頼りに、ピクチャー・カードを見せながら口頭で発表する活動である。教科書本文の暗誦を基本とした発表活動であり、スピーチの基礎になると考えている。また、2年生後半からは、リプロダクションのあとに自分の意見を付け加えて言う活動を行っている。リプロダクションは、本文のオーラル・イントロダクションや音読の延長線上にある活動であり、スピーチはさらにその延長線上にある活動として位置づけている。

3. スピーチのトピック

私は3年間を通して6回のスピーチを行っている(私が勤務する地区の学校は2期制なので、前期と後期に1回ずつ行う)。トピックは教科書に出てきた語句や文型・文法、本文に出てきた話題を活用できるように設定している。

- | | |
|-----|---|
| 1年生 | ①「教科書の登場人物紹介」(L.4) |
| | ②「自己紹介」(L.8) |
| 2年生 | ③「ある日の出来事」(L.2) |
| | ④「将来の夢」or「10年後の私」(L.5) |
| 3年生 | ⑤「My Treasure」or「My Best Friend」(L.3,4) |
| | ⑥「教科書に出てきた話題」(11~12月) |
| | ※①~⑤は()内の教科書(NEW CROWN)の課が終了したあとに行う。 |

上記の②~⑤では、それぞれ「必ず使用する文型・文法」を指定し、②では助動詞 can、③では過去形(一般動詞および be 動詞)、④では助動詞 will および to+動詞の原形(不定詞)、⑤では have+過去分詞(現在完了形)のように、学習した文型・文法を活用

できるようにしている。

なお、①は、*NEW CROWN* に出てくる Ken, Kumi, Emma, Paul, Ratna 等の人物から一人を選び、L.1～L.4の本文に書かれている情報をもとに、顔が描かれた picture card を見せながら人物紹介する、1年生が初めて行うスピーチである。1～2文自分が創作した情報も付け加える。⑥は、これまでに教科書本文に出てきたトピック(聴導犬, 自然環境, 温室効果, カンボジアの地雷, 世界遺産, 原爆等)の中から1つを選び、それについて行うスピーチである。教科書本文の英文を引用し、それをベースにスピーチを展開させる。前述のリプロダクションに自分の意見を付け加える活動を発展させたものである。

4. スピーチの指導手順

私は以下の手順でスピーチ指導を行っている。

- (1) モデル文を提示して、やり方を説明する(ハンドアウトと下書きを書く用紙を配付する)。

※ハンドアウトの例 (2年生「ある日の出来事」)

「ある日の出来事」について10文くらいでスピーチをしましょう。

【モデル文】

- ① Hello, friends.
- ② Last Saturday I went to Kita Park with Ken.
- ③ We went there by train.
- ④ It was a sunny and hot day.
- ⑤ We enjoyed fishing there at the lake.
- ⑥ Look at this picture.
[釣った魚の写真を見せる]
- ⑦ I got three fish and Ken got two fish.
[数を表すジェスチャーをする]
- ⑧ We were very happy.
[感想を言う]
- ⑨ After that we had *onigiri* by the lake.
- ⑩ Do you like fishing?
[聞き手に質問する]
- ⑪ Thank you for listening.

- (2) モデル文の音読練習をする。

- (3) 下書き原稿を作成する。

- (4) 下書き原稿を教師がチェックする。

- (5) 最終原稿を作成する。

- (6) 2～3名の生徒同士で原稿を見せあう(よい点, わかりづらい点等を指摘しあう)。

- (7) 各自で練習する(原稿は暗誦する)。

【留意点】

- ・原稿を書く前に、学級全員でトピックに関するいろいろなアイディアを出し合い、情報を共有する。
- ・スピーチの長さ(語数や文の数)は最初と最後の挨拶を含めて示す。6回行うスピーチで段階的に語数や文の数を増やしていくとよい。
- ・モデル文には、英文以外に、例のようなスピーチの展開等に関する説明を示しておくとうわかりやすい。
- ・下書きは初めから英語で書かせる(日本語を英訳しようとする、生徒の英語力を超えた内容になってしまう)。
- ・スピーチで使用する語いは、聞き手への配慮として、原則として既習のものとする。未習の語いは使用する場合は教師に相談させる。
- ・下書きにジェスチャーやものを提示するタイミングなどを書き込ませる。

5. 発表の方法

- ・発表順をあらかじめ決めておき、教室に掲示する。
- ・1回ごとの授業で3～4名ずつ実施する。または、特定の1時間に「学級スピーチ大会」のようにして、全員がスピーチを行う方法もある。
- ・教師は必ず教室の一番後ろの方でスピーチを聞く。
- ・聞き手の生徒にも、顔を上げてスピーチを聞くように指示する。

6. スピーチにおける発展的な活動

スピーチは基本的には、話し手が一方的に話す活動であるが、スピーチ終了後に聞き手が話し手に質問をしたり(例: What kind of fish did you get?), スピーチのあとにどのような内容だったかを言わせたり、感想を発表させたりすると、interactive な活動にすることができる。

【参考】ELEC 同友会英語教育学会実践研究部会 編著
(2008)『段階的スピーキング活動 42』三省堂

特集 スピーキング力を伸ばす

即興でのスピーキング活動 (チャット)の指導法

今堀志津

(大阪府枚方市立津田中学校)

1. はじめに

チャットは、日頃からの準備がなければ、とてもできるものではありません。実際、「日本語でかまいません」と言われても、躊躇する生徒が多いことでしょう。ましてや、外国語である英語で行うとすれば、結果はもう明白です。それでは、普段からどのような準備をしておけばスムーズにチャットが行えるでしょうか。また、チャットを成功させるためには、どのような指導が有効でしょうか。本稿では、チャットのねらいを「英語を話すことに慣れる」とし、準備と指導法について、①英語指導面と②環境面の2つの観点から考えてみましょう。

2. 普段から取り入れたい英語でのQ & A

まず、生徒に自分の気持ちや考え、意見などを英語で表現させる練習として、普段の授業でのOral IntroductionやOral Interactionの際に、必ず先生と生徒の間でQ & Aを行います。その際、ただ単に事実に関する決まった答えの質問(closed question)だけではなく答えが決まっていない質問(open question)をして、生徒の気持ちや考えなどを表現させます。特に、NEW CROWNの教科書は内容を深められるレッスンが多いので、本文を扱う中で英語で生徒に気持ちや考え、意見などを発表させるのに適しています。

3. コミュニケーションを持続させるための簡単なテクニック

コミュニケーションを持続させるには、例えばPardon?やWould you speak more slowly?、Let me see.などの使用法やHow about ~?などの相手の意向を聞いたり、話を広

げたりする方法を普段から使用する機会をつくることです。これらは、いわば「お決まり表現」ですので、Q & Aなどの際にどんどん使わせて慣れさせることが大切です。

4. 音読から「プラスα」へ

普段からしっかりと音読(教科書の本文)を行い、英語のさまざまな要素を内在化させておくことが非常に重要です。特に目標としてチャットを行わせたい場合は、ダイアログ形式の本文を、何度もロールプレイングさせることです。この段階では、アイコンタクトをとったり、イントネーションに留意させたり、気持ちを込めた言い方をしっかりと習熟させておきます。また、通常のロールプレイングの次の段階として、「プラス・ワン・リーディング」を行います。これは、本文のダイアログを二人でロールプレイングしたあと、最後に一言ずつ、自分の好きなことを付け加えて会話を広げるという音読です。当然会話ですので、いくら好きなことを付け加えるといっても、二人の話がかみ合わなければなりません。コンテキストに合った内容でなければなりません。「プラス・ワン」で慣れてくれば、さらに1文ずつ増やして「プラス・ツー」、また1文ずつ増やして「プラス・スリー・リーディング」へ持ち込みます。この段階では、各生徒は、基本的には3文ずつ、自分で会話をしていることになります。

なお、同じペアとばかりのロールプレイングでは、どうしても話題が広がらなくなってしまいます。それを防ぐために回転寿司方式でペアをまわします。この方法により、その都度違った相手と練習することができるので、自然と話題に広がりが出てきます。

また、話題を広げるために、「プラス・スリー・リー

ディング」のあたりで、一度クラス全体で発表をさせます。その際、「同じ流れで会話が終わるものは3ペアまで」などのように、クラスの生徒の実態にあわせてルールを決めるなど、話題が自然と広がるように、あらかじめ工夫をしておきます。

5. チャット本番

いよいよチャットですが、生徒が慣れないうちは、既習ロールプレイングに関連の深いテーマを選びます。また、impromptuですので、できるだけ生徒が、「このテーマなら話したい」、「このテーマについてなら自分は話ができる」と思えるようなテーマ、つまり、生徒の生活や興味・関心に関連の深いテーマを選びます。また、「1分間続けてみよう」、「どのペアが一番長く続くかな」などと、時間的な制約を設けて、生徒の話す意欲を引き出します。

評価については、あらかじめ生徒に知らせておきたいいくつかの観点により、チャット本番で評価をします。このとき、生徒同士でも評価を行います。生徒同士の評価では、励ますことを目的とし、「励ましカード」というカードを配り、良かったことだけを簡単に記入させます。あとでこのカードを、チャットを行った生徒に渡します。

6. チャット終了後の指導

チャットを行うと、どうしてもエラーやミスタイクが出てきます。それらをその場で訂正するとコミュニケーションを中断させたり、生徒に間違いに対する不安を引き起こして積極的なチャットができなくなったりする可能性があります。そのため、私は次のような方法をとっています。生徒のエラーやミスタイクは、チャット終了後、コミュニケーションに支障をきたすエラーに限り訂正します。また、チャット終了後すぐに、できるだけ詳しく、たった今行われたチャットを紙に書いてもらいます。そしてのちほど、必要ならそれを訂正します。チャットを紙に書かせるこのライティングの活動は、定着をはかる効果もねらっています。また、チャットを書かせた紙は次のように使い、生徒のモチベーションを高めることもできます。

7. 環境づくりとモチベーション

前述のチャット再現の用紙を使用すれば、よいチャット、面白いチャットを学年の「英語通信(英語の授業に関する様々な情報や、生徒の英作文などの作品を載せた、いわば教科通信)」に載せて生徒同士で共有させることができます。また、学校のHPで紹介すると、さらに多くの人たちでチャットを共有できます。「英語通信」や学校のHPに作品を載せることにより、「よいものをつくろう」、「独創的なものをつくろう」という生徒のモチベーションも高まるようです。

また、普段から授業で生徒の外発的モチベーションを高める工夫が必要です。生徒が自分の考えを言えたら褒めることをはじめ、様々な方法があります。例えば、独創性の高いチャットができたときは、クラスでしっかりと褒め、ポイントを入れる(スタンプをおしたり、シールをはったりするなど、努力が目に見える形にするとよいでしょう)など、英語でチャットしてみようという気持ちを起こさせる工夫が必要です。私の経験から、一般的に「英語でしゃべってみたいけど…」など、生徒は本来「しゃべりたい」という欲求があるように思います。一度チャットがうまくできれば、生徒は必ず達成感を味わうはずです。また、英語でのチャットに自信が出てくるはず。これらをしっかりと引き出し、「次も頑張ろう」と生徒が思えるようなポジティブなサイクルをつくりあげる工夫が大切です。また、当然のことですが、「間違いは恥ではないこと」を伝えたり、「クラスメイトが困ったらサポートすること(ピア・サポート)」を奨励したりするなど、教室の環境づくりをしておくことも必要です。

8. まとめ

以上のことをまとめてみますと、普段から「チャットができること」を目標に単元を組み立て、準備をしておく必要があります。英語指導面では「階段を一段一段上るように誘導していくこと」、また環境面では、「モチベーションを高める工夫」や「間違えても恥ではないと伝えること」などが大切であるといえるでしょう。

スピーキング指導における評価について

田中 武夫

(山梨大学)

スピーキング力は、文法やリーディング力と違って、筆記テストで測定することはできません。スピーキングテストを実際に課し、生徒のパフォーマンスをもとに評価することになります。では、何をどのようにテストすればよいのでしょうか。

1. スピーキング指導で何を評価するのか

スピーキングの評価でもっとも大切なことは、どのようなスピーキング力を育てたいのか教師が具体的な目標をもつことにあります。その際、コミュニケーション能力の構成概念が、スピーキング指導の目標設定に役立ちます。コミュニケーション能力の捉え方にはいくつかありますが、代表的なものとして、文法能力、談話能力、社会言語能力、方略能力の4つの要素があります(Canale, 1983)。

文法能力とは、音声、語彙、文法を正しく用い、相手にメッセージを正確に伝える力を指します。談話能力とは、1文以上の長さで、自然な流れの一貫した会話を作り出す能力のことです。社会言語能力とは、相手との関係や目的・場面を把握し、適切な

表現を使って意図を伝える能力のことです。方略能力とは、上記の力が不十分であっても、なんとかして相手に意味を伝える工夫をする力のことです。

コミュニケーション能力のうちの何に焦点を当てて指導を行うかを決めると、授業中にどのような活動を行い、どのように評価すべきか計画しやすくなります。例えば、生徒の方略能力を育てたい場合、話し相手との会話を途切れることなく継続させる力を育成し評価することになります。また、社会言語能力の育成を目標にした場合、会話の目的と相手を的確に把握し適切な表現ができる力を育成し評価することになります。表1は、どこかに誰かを誘う電話の会話をもとに、4つの能力に応じ指導目標をそれぞれ設定した場合の言語活動例と評価例を提示しました。

表のすべての目標を1つの授業で扱うというわけではありませんが、同じ電話の会話でも、異なる視点からスピーキング力を評価することが可能であることがわかります。また、指導目標を具体的に決めることで、授業の中で行う言語活動の内容や指導

表1. スピーキング指導の目標・言語活動・評価例

	指導目標例	言語活動例	評価例
文法能力	学習した語彙や表現などを正しく用いて、相手にメッセージを正確に伝えることができる。	This is ~ speaking. May I speak to ~? などの電話の会話で役立つ表現を覚え、それらを使ってロールプレイをさせる。	習った定型表現を間違わずに、正確に使用することができたか。
談話能力	自然な流れの会話になるよう、相手との会話をうまくつないで、わかりやすくメッセージをやりとりできる。	土曜日のパーティーに電話で友だちを誘う会話のスキットを英語で作らせ発表させる。	電話での2人の会話の中で、自然な流れで turn taking できたか。
社会言語能力	どのような場面で、誰が相手で、何が目的かを的確に把握し、それに応じてメッセージを適切に伝えることができる。	ALTの先生に、スピーチの原稿を見てほしいと電話で依頼する設定のスキットを作らせ発表させる。	相手に配慮して丁寧な表現や理由を考え、目的とする依頼が達成できたか。
方略能力	限られた時間の中で、自分の力をうまく補って、途切れることなく相手との会話を続けることができる。	ALTを相手にし、校内電話を使って、途切れることなく3分間英語のみで話し続ける活動をさせる。	話が途切れることなく、3分間英語のみで会話を継続することができたか。

後の評価ポイントが決まってくることもわかります。

2. どのようにスピーキングを評価すればよいのか

では次に、スピーキングテストにおいて、どのように生徒のパフォーマンスを評価すればよいかを見てみましょう。生徒のパフォーマンスを引き出す方法として、表2に示すような多様なタスクが考えられます。タスクの特徴に応じ、スピーキング力の異なる側面を評価することができます。例えば、好き嫌いを尋ねるようなインフォメーション・ギャップでは、Do you like ~? などの文法事項を正しく使うことができるかどうかを評価できます。趣味を話し合うようなディスカッションでは、より詳しい情報を尋ねたりして、会話を継続させる力を評価することができます。

表2. スピーキングテストのタスク例

タイプ	特徴	主な評価対象(例)
インフォメーション・ギャップ	お互いの不足する情報や新情報を活動によって補完させる。	学習した文法や表現を使って情報のやりとりができるかどうか。
インタビュー	あるトピックについて、教師が質問したり、情報や課題を要求したりする。	学習した文法や表現を駆使し、要求に応答することができるかどうか。
ロールプレイング(スキット)	場面や人物などを設定し(自分で会話を作り)、自然な言語使用を体験させる。	場面や目的に応じて適切な言語使用ができるかどうか。
レシテーション	教科書の本文などの意味内容を捉え、感情を込めて英文テキストを暗唱させる。	適切な発音やリズムで表現することができるかどうか。
スピーチ	あるトピックについて自分の意見や体験をまとめ、クラスの前で発表させる。	談話構成を含め、わかりやすく伝えることができるかどうか。
ディスカッション	あるトピックについてペアやグループで自分の意見を即興で言い合う。	ある話題について瞬時に対応し、会話を継続させることができるかどうか。
ディベート	あるトピックに対し賛成・反対を表明し、意見を発表させる。	説得力のある意見を瞬時に述べるができるかどうか。

これらは、普通の授業の中での活動として生徒の取り組みを直接評価することが考えられます。一方、普通の授業とは別に、教師とのインタビューの中で評価する方法も考えられます。インタビューでは、表2で挙げたタスクを教師の前でパフォーマンスさせます。例えば、パーティーへの誘いを断る

といったロールプレイ的な課題を与えたりできます。また、準備してきたスピーチやスキットを発表させる形も考えられます。

次にインタビューの中でもロールプレイ的な課題を課したスピーキングテストの例を、NEW CROWN 3のDO IT TALK 4やTALK 5の応用例として紹介します。

カードに書かれている場面での会話をを行います。
次のカードに書かれたように会話をしましょう。

- ・あなたはジョン先生の家へ電話をかけます。
- ・明日の午後1時から桜スタジアムで野球の試合があります。
- ・その試合にジョン先生を誘います。

(テストを実施する前に、表3のような評価規準を生徒に示しておく、そこを意識して取り組むことになります。また、テスト後のフィードバックとしても活用できます。)

表3. 評価チェック表

評価規準	評価基準
(1) 電話の決まり文句を正確に使うことができる。	(1-2-3-4-5)
(2) 話を聞いて自然な流れで受け答えができる。	(1-2-3-4-5)
(3) 教師との会話をうまく継続させることができる。	(1-2-3-4-5)
(4) 相手を誘う目的を達成させることができる。	(1-2-3-4-5)
	合計

ここでは、スピーキングテストにおいて何をどのようにテストし評価すべきかを見ました。当然ながら、授業の中で十分指導し練習を行った上で、スピーキング力を評価することが前提です。また、スピーキングテストを含めた長期的な指導計画を立て、同僚との共通理解を図り、テスト時間を確保することも重要です。その上で、生徒のスピーキング力を多様な側面から捉え、適切な方法で評価できれば、豊かなスピーキング力を育成することにつながるはずです。

【参考文献】

Canale, M. (1983). "From communicative competence to communicative language pedagogy." In J. Richards and R. Schmidt. (Eds.). *Language and Communication*. London: Longman.

研究授業用の指導案の書き方

松沢 伸二 Matsuzawa Shinji

(新潟大学)

1 はじめに

私は教育学部に勤務する関係から、中高の先生方の研究授業を参観する機会が多い。右のページに示したのは、「このように書いていただくと、参観者にはありがたい」という思いでまとめた研究授業用指導案 (teaching plan) の書式である。以下にその意図と書き方を説明する。(1. クラスの実態, 2. 本時の位置づけ, 3. 本時の目標, は省略してある。)

2 指導過程ごとに区切り、目標を書く

英語の授業は Warm-up, Review, Presentation, Practice, Production, New Words, Reading, Consolidation などの指導過程から構成される。研究授業後に開かれる協議会では、こうした指導過程ごとに検討されることが多い。そのため、指導案が指導過程ごとに区切られ、その過程固有の目標が記述してあると、当該指導過程は良かったのか、改善すべき点は何なのか協議しやすくなる。

例えば「指導過程 1: Warm-up (5 分)」で、生徒が JTL (Japanese Teacher of Language) の友達の写真を見て、JTL に英語で質問する場合は、「a. 本指導過程の目標: ①英語の雰囲気が醸成され、生徒は英語で話したくなる。②生徒は既習表現を用いて簡単な英語で質問できるようになる。」などと、当該指導過程で生徒ができるようになることを期待する目標を、「生徒は…できる」という形で記述する。

3 指導と学習を評価する観点を書く

教師は優れた指導をしているか、生徒は良い学習をしているか、参観者は各自の評価観点で授業を見がちである。しかし研究授業を担当する教師自身には、「この指導過程で自分がこのように進めてい

ば OK で、生徒がこのように学んでいれば期待どおりだ」といった意図がある。これが指導案に明記されていると、参観者は研究授業の趣旨に適った評価ができ、協議会での議論のポイントが絞られて生産的になる。

「b. 教師の指導の評価観点」は、「教師はいろいろな質問が出るようアドバイスをしているか。」のように書く。この項目は、参観者が教師の指導を評価する観点として特に重要な事柄について、「教師は…しているか」という形で記述したい。同様に「c. 生徒の学習の評価観点」には、生徒の学習のうち特に重視する事柄を取り上げて、「生徒は既習表現、文法を用いて、情報を得ようとしているか。」などと、「生徒は…しているか」型で書く。こうした記述があれば、指導と学習のできばえの判定が確実になる。

4 シナリオ形式で書く

研究授業後の協議会では、教師が実際にどのような文言で指示したか、それに生徒はどう応答したかが検討される。この種の議論のためには、劇のシナリオのように、こうした発話の実際を指導案に書き込むとよい。学校全体で 2, 3 クラスの授業が同時に公開されて、参観者が 15 分や 25 分ごとに教室を移動する場合がある。こうした時に指導案がシナリオ形式で書いてあると、見られなかった指導過程についての協議にも加われるのでありがたい。

「d. 指導手順 教師の働きかけ」には「JTL: We have a lot of guests today. We have one more guest. I'll introduce you one of my friends. His name is Thomas. Please call his name, class. Are you ready? セーの!」, 「生徒の応答/活動」には「Students: Thomas!」などと書く。

(1. クラスの実態, 2. 本時の位置づけ, 3. 本時の目標, は省略してある。)

4. 本時の展開

指導過程 1 : (.....分)

a. 本指導過程の目標 :

b. 教師の指導の評価観点 :

c. 生徒の学習の評価観点 :

d. 指導手順

教師の働きかけ	生徒の応答／活動	留意点
.....		

e. 板書計画

.....

f. 配布ハンドアウト

.....

指導過程 2 : (.....分)

a. 本指導過程の目標 :

.....

なお「留意点」の欄には、当該指導過程の学習指導において予期される問題とその解決策、準備すべき教具、生徒の活動形態(ペア／グループ)などの事柄を書いておく。

5 板書とハンドアウトの計画を書く

授業の上手な教師ほど、黒板に何をどう書き、いつ消すか、どんなピクチャー・カードをどのタイミングではるか、授業終了時の黒板には何を残すか、といった板書計画を綿密にたてる。指導案の「e. 板書計画」に前もって板書の縮小版などが示してあれば、その良し悪しを生徒の様子を見ながら評価できるのでありがたい。これがないと参観者は板書を書き写すのに忙しく、大事な場面を見逃したりする。

生徒に配るハンドアウト類には、研究授業の「研究」部分を反映する新しい取り組みが表れているこ

とが多い。「f. 配布ハンドアウト」に当該指導過程で使う印刷物の縮小版を示し、実物を指導案末尾に添付すると、どのプリントが使われたかが一目でわかり、「研究」部分の議論を深めることができる。

6 おわりに

上の指導案の書式は詳細なものである。A4用紙であれば、両面印刷でもかなりの枚数になる。労力が必要だが、参観者から良い観察と鋭い意見を引き出すためには、こうした具体的な指導案が必要だ。

詳しい指導案を書くことは授業の優れた予定演習になるから、本指導案の書式は授業参観者だけでなく、研究授業の教師と生徒に恩恵を与えるものでもある。(本文中の指導案の書き方の例は、新潟大学附属新潟中学校大岩樹生教諭の2005年10月26日の研究授業の指導案から引用させていただいた。)



リスニング・テスト 作成の心得

根岸 雅史 Negishi Masashi
(東京外国語大学)

今回はリスニング・テストの作り方を扱おうと思うが、みなさんはそもそもリスニング・テストを自身で作成しているだろうか。これまで私が見てきた定期試験問題の中には、かなりの比率で市販のテスト問題を切り貼りして作ったと思われるものがある。こうした問題は、往々にして教師の指導とかけ離れてしまっている。テストとは、教師が自身の指導目標に照らして自作するのが基本だろう。以下、そのための心得をまとめてみる。

1. スクリプトは(どう)書くか

リスニング・テストにおいては、まず生徒に何かを聞かせなければならない。このため、一般的に英語の教師はスクリプトを書いているだろう。しかしながら、本来話されるものを「書く」というのは思ったほど易しいことではない。とりわけ自然な会話を書くというのは、難しい。実際、自作の定期試験問題の中には、どのような人間同士であればこのような会話になるのかと首をかしげたくなるものもある。スクリプトを書き始める前に、どのような人物がどのような場面で何のために話しているのかを明確にしておくべきであろう。そうすることで、会話はより自然に展開していく。

リスニング・テストのスクリプトを見て、実際の会話ととりわけ異なると思われる点がある。実際の会話では、会話はコミュニケーション・ブレイクダウンが起こらないように最大限の努力を払うものだが、テストではなるべく聞き手に「いじわるに」会話が展開されるようになっていることだ。たとえば、実際の会話では、電話番号や住所などは何度も確認して正確を期す(場合によっては音の聞き間違いのないように“M as in Mary”のような確認さ

えある)が、テストとなると1度きりだったりする。

その他、自然会話では、well, er, you know, let me see, I meanなどのfillerがあったり、繰り返しや言い直しがあったりする。またreallyやohなどの語も適宜入り、会話はいきいきとしている。教師としては、どれもなじみのものかもしれないが、意外とスクリプトを書く段になると忘れがちである。

しかし、考えてみれば、何もスクリプトを書かなければならないわけではない。何かのオーディオCDから素材をとってくることも可能であろうし、インターネット上の様々な音源を使うこともできるだろう。ただしこのような場合でも、指導目標との整合性や英語のレベルは確認すべきである。

音源の作成にあたり、ALTを利用する手もある。ALTの利用となると、音声を吹き込んでもらうことがすぐに頭に浮かぶが、スクリプトを書いてもらったり、自分で書いたものを見てもらったりすることもできる。より進んだ利用方法としては、ロール・プレイング・カードを使ってスクリプトなしで即興で演じてもらう方法もある。この方法だと、言いよどみや繰り返しが自然に出てきやすい。

2. 文脈の必要性

リスニング・テストでは、「これから流れる英語を聞いて、次の質問に答えなさい」というような問題がよくある。これはリスニング・テストとしてはありふれた問題だが、現実の世界では、このようにどこからともなく聞こえてくるようなリスニングはありえない。どのような場面で、誰が話しているかもわからない状況で行われる、自分と関係ない会話の中身を細大漏らさず聞き取らなければならないの

である。だとすると、このような「真空状態でのリスニング」は、現実世界にはないよいいな負荷を生徒にかけていることになる。ただでさえ文脈から切り離されているテストにおいては、場面や話者、聞く目的などについての情報を指示文に盛り込んでおくといだろう。

3. タスクはどうするか

リスニング・テストでは、何かを生徒に聞かせて、それを理解しているかを見るために何らかの作業をさせる。そうするのは、人の理解の結果は外からは直接観察できないからだ。

リスニング・テストというと Q&A 型の内容理解問題が思い浮かぶかもしれないが、英語の内容に合う絵を選んだり、逆に絵の内容に合う英文を選んだりする「絵とのマッチング・タスク」や、話しかけに対して適切な応答を選ぶ「応答問題」などもある。

しかしながら、これらのタスクは現実の生活の中で行われるわけではなく、いわばタスクのオーセンティシティーは低い。コミュニケーション・テストの世界ではタスクのオーセンティシティーが強調されるが、とりわけリスニング・テストでは、オーセンティックなタスクの設定に向けていろいろと試みることができるだろう。オーセンティックなタスクを作るには、現実の生活でその英語を聞いたときにどのようなタスクを遂行するかをまず考えることだ。たとえば道案内の英語を聞くのであれば、現実の生活ではその指示に従って実際に歩くであろうし、天気予報を聞くのであれば、それに従って傘を持っていくかどうかを決めたり、その日の服装を決めたりするであろう。教室の中で紙の上で行うテストでは、このような行動をとらせるわけにはいかないので、次善の策として、道案内であれば地図の上に矢印で道順を書かせたり、目的の建物の位置を選ばせたり、天気予報であれば出かけるときの服装の絵を選ばせたりすることになる。

4. 「理解のレベル」をどうするか

リスニング・テストを作るときには、どのような理解のレベルを問うのかを確認して、問題ができたなら、その問題を解くときに生徒はどのような部分を

どのように理解して解答していくかをシミュレーションしてみることをお勧めする。そうすることで、本来ねらっていた能力をそのテストが測っているかがある程度わかるからだ。

リスニングにおける理解といっても、様々なレベルがある。いわゆる文字通りの理解から、リーディングでいう「行間を読む」ような理解まであるし、特定の箇所だけを聞き取るという理解もあれば、話の全体の流れを理解するというものもあるだろう。たとえば電話番号や時刻の聞き取りは、特定の箇所を文字通り理解すればよいのに対して、短いストーリーの聞き取りというようなものであれば、1 語の聞き取りでは済まずにある程度全体的に理解しなければならない。

5. テストの弁別力

全体得点とテスト項目との関係を、そのテスト項目の弁別力という。つまり弁別力は、その項目が能力の弁別にどれだけ役立っているかを示している。もちろん弁別力は高ければ高いほどいいわけだが、ここではこれまでの私の経験に基づいて、どのような項目がリスニングのテスト項目として高い弁別力を持つ傾向にあるかを紹介しておく。

以下では、多肢選択式の内容理解問題における弁別力について考える。まず、弁別力が低くなってしまふのは、スクリプト中のキーワードがそのまま正解の選択肢となっている場合である。このような問題では、聞いた英語をそれほど深く理解していなくても正解できてしまうため、できる生徒とできない生徒の弁別はうまく行われない。これに対して、スクリプトに含まれている単語が誤答の選択肢になっており、正解の選択肢がスクリプトには含まれない単語で構成されているような場合には、弁別力は高くなる。もちろんこうした問題作りは、入門期のテスト作りにはあまりあてはまらないかもしれないが、学習段階が進んだところでは考慮に入れるといだろう。このほか、英語を理解できていなくても常識で答えられてしまうような問題や、問題同士が依存していて、片方ができるともう片方も自動的に正解できてしまうような問題などは、弁別力が高いとは言えない。

「わかる」授業づくり を目指して

授業レポート CLASS REPORT

— 日々の授業でできるひと工夫 —

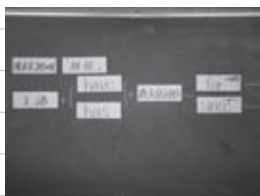
井上 志帆 Inoue Shiho (福岡県川崎町立池尻中学校)

1. はじめに

どのようにしたら、生徒が「わかる」と思える授業ができるのか、ということは、すべての教師にとっての課題です。これまでも、英語を苦手とする生徒に授業を少しでもわかりやすくするにはどうしたらよいか、少しでも苦手意識をなくすにはどうしたらよいか、ということを中心に考えながら、授業づくりを行ってきました。こちらが思うようにいかないことが多いですが、それでもあきらめずに、考えて実践し続けていくことが大切だと思っています。現在も日々、同僚と話し合い、アイデアを出し合いながら、よりよい授業づくりをするよう模索しています。今回は、その中のいくつかの実践を、授業の段階別に紹介したいと思います。

2. 導入、練習、復習：カードの活用

何かの情報を得るとき、耳から聞くだけでなく視覚的な助けがあるほうが、同じ内容を聞いても理解しやすいのではないのでしょうか。それが外国語である英語ならば、なおさらです。ピクチャーカード(絵や写真)を用いることにより、英文の内容を理解しようとする姿勢や、実際に理解力が増すことは先生方も感じられていることだと思います。そこで新出表現の導入や、口頭練習の場面では、生徒が英文の内容をよりしっかりと理解できるように、ピクチャーカードをよく利用しています。英文を絵の内容と合わせて何度も練習しておけば、復習の場面で

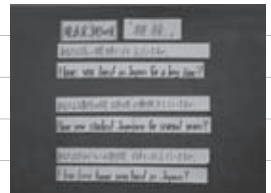


ワードカードの使用例

も再利用できるのが、さ
らによいところです。

また、ワードカードや、
ポイントの文を書いたセ
ンテンスカードを利用す
ると、黒板に文字を書く

時間を節約することがで
き、何度もくり返し復習
することもできて便利で
す。



センテンスカードの使用例

3. ページ別のまとめ：重要文小テスト

授業中の反応や理解力はよいのに、定期テストになると、プレッシャーからか結果をなかなか出せない生徒がいます。それが続くと、せっかくのやる気も失せてしまいます。それを何とかできないかと思い、日々の授業で達成感をもたせる工夫として、適宜、授業の最初に5分程度の小テストを実施しています。これは、各ページに出てくる重要文を学習したあと、テストする英文を指定し、次の授業で日本語から英語に訳して書くというものです。小テストの結果も評価の対象とすることで、努力すれば結果に少しでもつながることを実感してほしいと思っています。

〔3年生の重要文小テストの例：受け身の文〕

- ① その自転車は彼によって使われている。
- ② シンガポールでは英語が話されている。
- ③ この本は夏目漱石によって書かれた。

※1問2点で6点満点

家庭学習が定着していない生徒も多いため、授業中に時間があるときは、短時間でも覚える時間を取り、できるだけ生徒が英文に向き合う時間を増やそうにしています。

問題となる英文の数を限定しているので、英語を

苦手とする生徒の中にも、やる気をもって取り組んでいる生徒が何人もいます。英語を苦手とする生徒が、より前向きにこの小テストに取り組むようにしていくこと、さらに、これらの重要文は定期テストの内容とも関係するため、定期テストでもよい結果を出せるようにすることが、これからの課題です。

4. 展開：発表活動

どうしても中学校には、「高校入試に向けて力をつける」という最終的な目標があります。しかし、それだけでは英語を学習することを楽しさを感じることが少なくなってしまいます。

「楽しい」と一言で言っても、どうすることが楽しいことなのかは難しいところですが、学習したことをすぐにその場で発表したり、学習したことを活用して自分で表現し、それを発表する場をもつことが、「楽しさ」を感じる方法の1つではないかと思っています。ここでは生徒が「楽しさ」を感じながらできる発表活動を2つご紹介します。

①対話文の暗唱発表

1つめは、教科書に出てくる短い対話文を使った、対話文の暗唱発表です。

まず、対話文全体を発音練習し、おおまかに意味を確認します。その後、時間をとって暗記させます。暗記する時間をとる前に、生徒に暗記をして発表してもらうことを伝えると、生徒は最初、「え～！できません！」など弱気な発言をしますが、実際に「では、10分間、時間をとります。よーい、はじめ。」と合図すると、一生懸命友だちと協力しながら、覚え始めます。英語が苦手な生徒も、懸命になって覚えています。その懸命になって覚える姿を見ると、とても嬉しく感じます。たとえ、最終的に暗記できていなくても、その懸命さがあれば、まずはよいと思うのです。もちろん、全て暗記できていることに越したことはありません。なぜなら、暗記できたという体験が、生徒に自信をつけるからです。

評価は、すべてのセリフを暗唱できたか・ところどころ支援が必要だったか、発表するときの態度（一生懸命、発表しようとしているか）というところで見ていきます。

順番に発表させていくと、途中つまることはある

ものの、ほとんどの生徒が暗記して発表します。なかにはジェスチャーつきで、発表をする生徒もいます。そうやって自己表現を加える生徒がいると、教室の雰囲気もよくなります。1回目に暗記することができなかった生徒も2回目はできるように、何度か同じような機会をもちたいと考えています。

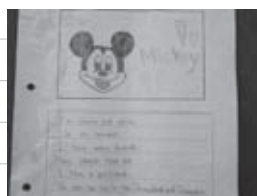
この活動は、暗記をすることによって、自然に重要表現も覚えることになるので、1つの効果的な勉強方法を学ぶ機会にもなっていると思います。また、特に準備をしなくてもすぐ行えるということも、よい点だと思います。

②“Show & Tell”と“Who am I?”の発表

もう1つの例として、2年生と3年生の学期のはじめに行った、“Show & Tell”と“Who am I?”の英作文とその発表について紹介します。“Show & Tell”では何を紹介するか、また、“Who am I?”では何をクイズにするか、を生徒にそれぞれ考えさせ、その意味が伝わるように英文を書かせました。テーマは特に指定せず、ものでも人物でも動物でも、自分が興味のあるものや、英文で書きやすいものを考えて書かせるようにしました。英文を書く用紙は、自分が紹介するものやクイズに出すものの絵や写真（雑誌の切り抜きでもよい）を上部の枠内に入れ、下部のスペースに紹介文やクイズの文を書くというワークシートを準備して使いました。

英文を書かせるときは、書く時間と書く分量を前もって伝えることにしています。時間については、きちんと伝えておかないと、なかなか書き進めることができません。3年生では20分で5文以上、2年生では15分で3文以上書くことを条件として出しました。文法や内容はもちろん大切ですが、まずはとにかく書いてみることを優先することが、英作文に慣れさせることへの第一歩だと思います。でき上がった英文には文法上の間違いがあるものもありましたが、書くことができたという満足感を感じることができたようです。

書き上がったら、一人ずつ発表させます。発表するときは自分が描いた絵や準備した写真、雑誌の切り抜きなどを見せな



生徒作品例 1

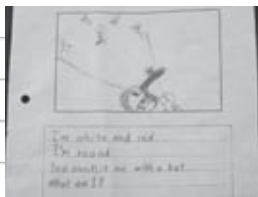
がら、あるいはクイズの場合は答えを言うときにそれらを見せて発表していききました。

評価の観点は、声の大きさ、発音（発音が正しくできているか）、内容のわかりやすさ、発表するときの態度の4点です。生徒自身も友だちの発表を聞いて評価していきます。そのための評価を記入する用紙を発表会の前に配布しておきました。

実際の発表では、自分の大切にしている持ちもの（グローブやボール、ペン、筆箱など）、家族、友だち、好きな芸能人、アニメのキャラクター、動物、シャーペンの芯など、さまざまなものが出されました。前に出て発表することに、ためらいを感じる生徒もいましたが、全員発表ということで割り切って発表ができたようで、発表後は満足感を味わったようです。

また、発表を聞く生徒も、発表者の言いたいことをくみ取りながら、一生懸命耳を傾けていました。一度聞いただけではよくわからないときは、再度発表するよう要望を出すなど、積極的な姿も見られました。友だちの発表を聞くことは、一生懸命聞こうとする姿勢が身につくこと、よりよい表現を知ることができることなどのよい点もあります。

英語が苦手な生徒はこちらからの声かけ、支援があつて、やっと書き始められる状況ですが、なかに



生徒作品例 2

は辞書を使ったり質問をしたりしながら、自分でどんどん書く生徒もいます。文法上の間違いの訂正は、次時の英作文の時間に行います。

5. 学期末：教科書本文の音読テスト

英語学習を前向きにさせるため、また英語を苦手とする生徒に自信をつけ、よりやる気にさせるための方法として、英文をスムーズに音読できるようにすることは重要です。日々の授業でも音読には取り組んでいます。ただ音読できることの重要性をいくら伝えても、何かがないとなかなかやる気を出せない生徒もいます。

そこで学期に一度、教科書の範囲を指定して、音読テストをするという課題を出します。そうするこ

とで、日々の授業での教科書を読む練習に目的をもたせます。テストする範囲は学期ごとに変えていこうと考えていますが、一例として1学期の場合は、教科書2ページ分を範囲として指定し、テストはそのうちの1ページを行いました。どちらを音読することになるかは、その場でくじをひいて決めるので、2ページとも練習をしておく必要があります。

評価の観点は、声の大きさ、発音が正しくできているか、抑揚があるか、発表するときの態度の4点です。生徒自身も友だちの評価を、用紙に記入していきます。また、暗唱をすることができた場合、プラス点をつけるという条件をつけました。そうすることで、チャレンジ精神をもって行う生徒が少しでも出てくると、ほかの生徒へのよい刺激になるのではないかと思います。

テストは学期末なのですが、それよりも前から発音を生徒同士で教え合ったり、教師に質問してきたりする姿が見られました。これを機会に、英語に自信がもてる生徒が少しでも出てくることを期待しています。

6. おわりに

外国語学習は地道な努力の積み重ねが必要なだけに、外国語を学ぶことの重要性や価値に気づいていない生徒が多くなります。前述したように、中学校では高校入試も学習の大きな目的になります。しかし、目的がそれだけだと、英語を苦手とする生徒にとっては、ますます苦しい時間にもなりかねません。それを少しでも解消するために、どんなことができるかを考えながら、日々の授業で紹介したような実践を行っています。

しかし、どの教科にしても、学習とは本来、きついいことを乗り越えながら、本当の「楽しさ」を感じるものだと思います。それを、どう生徒に伝え、どう実感させていくことができるか、それが、生徒が「わかる」授業をつくっていく上での大きな課題になると思います。また、現在行っている取り組みが、どういう結果につながっていくかを点検、修正していくことを忘れてはならないと思っています。

Just Now

相互理解, 豊かな表現力を 育てる英語活動の実践

小野 鉦司 Ono Koji
(愛知県弥富市立弥生小学校)

I はじめに

本校では、今年度より「豊かなコミュニケーション能力を身につけた弥生っ子の育成をめざして——相互理解, 豊かな表現力を育てる英語活動を通して」というテーマで、英語活動についての研究に取り組んでいる。平成 23 年度より小学校 5・6 年生に週 1 回(年間 35 時間)の英語活動が導入されることは、すでに周知の事実ではあるが、学級担任による英語活動の授業が展開されていくことについては、いろいろな面で多くの不安要素を抱えている学校が多いのではないだろうか。そこで、本校のめざしている学級担任が行う英語活動の授業の展開について、以下に紹介し、モデルプランとして提案する。

II 平成 19 年度の取り組み

実は、すでに本校では、平成 19 年度において、「コミュニケーション力の土台づくりをめざして——楽しい英語活動を通して」というテーマで英語活動の研究に取り組み、本校独自の 5・6 年生の英語活動の年間指導計画を完成させるという成果をあげている。今年度研究のベースとなっている平成 19 年度研究については次の通りである(抜粋)。

(1) 英語活動のめざす方向

英語を聞いたり、話したりする活動を通して、外国の文化に興味を持つと共に、コミュニケーション能力を育成し、国際社会のなかでたくましく生きる子どもの育成をめざす。

(2) 英語活動でめざす子どもの姿

自分の言いたいことを、言葉や身振りや表現を工

夫し伝えたり、相手が言いたいことをしっかり聞いたりして、英語に親しみながら楽しく他者とのコミュニケーションを図ろうとする姿がみられる子ども。

(3) 英語活動 6 つの約束

え…笑顔の「え」 「笑顔いっぱい」
い…イングリッシュの「い」 「英語で」
ご…コミュニケーションの「ご」
「コミュニケーションをとろう」
く…Clear voice 「はっきりした声で」
り…Listen carefully「しっかり相手の話を聞き」
あ…Eye contact 「目と目をあわせ」
楽しく英語活動しよう。

特に次の点を大切に、楽しい英語活動を実践する。

●笑顔で(Smile)…

笑顔は、人と接するときの基本であり、それだけで相手も心を開き、お互いの気持ちがよくなる。関係を円滑にし、元気な声の元になる。

●はっきりした声で(Clear voice)…

相手に届く声でないと、言いたいことは伝わらない。その場の状況を考え、どんな声の大きさと話したらよいかを判断することが大切である。

●目と目をあわせ(Eye contact)…

相手の目を見て話をしたり聞いたりするのは、会話をするときの基本であり相手を尊重する大切なマナーである。特に、英語活動では相手の話していることを理解するために、相手の目・口・表情などを見ていないと、相手の伝えたいことが理解できないことがよくある。目と目を合わせることは、お互い

の気持ちを通じ合わせるのにもとても大切である。

(4) 学級での英語活動の実際

各月を4週と考え、第1週から第4週まで HRT (Home Room Teacher) が主体となって英語活動を行うことを基本とするが、次のような指導体制を取り入れる。

① HRT と ALT (Assistant Language Teacher) と JTE (Japanese Teacher of English)

ALT は、英語を身近に感じさせたり、生きた英語を学ばせたりすることができる。基本としては、ALT が加わる場合には JTE も加わる。

事前に3者で打ち合わせをし、45分の効果的な役割分担を考え、チームティーチングを行う。

② HRT と VET (Volunteer English Teacher)

音源 (VTR・CD) の活用や教材を工夫するなど活動に変化をもたせた授業を行う。時には、子どもたちに手伝わせながら楽しく英語活動ができる工夫が必要である。

地域講師の VET は、場に応じた適切な英語を使用したり、はっきりした発音ができたりした児童を認め、それを学級に広めることを役割として位置付ける。

(5) レッスンプランづくり (ランチボックス型)

活動の流れ (活動過程) を以下のようにパターン化し、HRT と子どもたちが、活動に興味と見通しを持って取り組める方法を工夫する。

【活動の過程】

- | | |
|----------------------|------------|
| 1 Greeting | はじめのあいさつ |
| 2 Warming up | 今月の歌 ダンスなど |
| 3 Today's Expression | 本時のテーマ |
| 4 Drilling | 練習 |
| 5 Pair work | ペア練習 |
| 6 Play a game | ゲーム |
| 7 Today's Comments | 活動の振り返り |
| 8 Greeting | 終わりのあいさつ |

※毎時間、弥生小学校の「英語活動6つの約束」を、活動過程の中で常に子どもに呼びかける。

各活動は、ねらいや学年の発達段階に応じて活動内容を工夫し、子どもたちが自ら学習意欲を喚起し、興味を持って楽しめるように配慮する。

(6) 音源や教材集、教具の活用と工夫

HRT だけの英語活動では、学習活動が単調になりやすいし、担任の英語力の差による発音や語彙をはじめとした指導に学級間格差が生じやすい。そこで、同学年の子どもたちに、同じように楽しく英語活動を行わせる場の設定をするために、次のような教材や教具の活用と工夫をすることにした。

- ・ NHK ビデオ『えいごリアン』、CD 付き絵本『Alphabet』、英語音楽 CD、英語絵本・教材集等、その他、自作を含む教具各種。

III おわりに

平成19年度研究を基にして、今年度は、1～6年生の全学年で、英語活動に取り組む計画を立てている。1・2年生では、1日9分ずつのモジュール型 (9分×5日×10週) で、学級活動や弥生タイム (授業時数にはカウントしない時間) に英語活動を行う。3・4年生では、週に30分のモジュール型 (30分×33週) で、総合的な学習の時間や弥生タイムに英語活動を行う。5・6年生は、週45分の定型型で、総合的な学習の時間や弥生タイムに英語活動を行う。英語活動を通じて、英語好きな子どもたちがたくさん育ってくれることを、心より願ってやまない。



4コマ漫画の活用！

立花千尋 Tachibana Chihiro
(長浜バイオ大学)



『対訳よりぬきコボちゃん—(1)(2)(3)』
(© 植田まさし, 講談社インターナショナル刊)

今回は、4コマ漫画を英語授業で活用して、英語に興味を持たせ、できればクリエイティブ・ライティングまで発展させることを考えてみます。中学生に相応しいレベルの英語対訳付きの4コマ漫画をいくつか紹介します。

まず、検定教科書にも用いられた読売新聞に連載中の「コボちゃん」です。『対訳よりぬきコボちゃん』(植田まさし, 講談社インターナショナル刊)があります。特長は、吹き出しに英語、そのコマ横に日本語を配した対訳形式になっています。状況が明確に設定され、感情表現や相槌の打ち方がよくわかり、家庭を舞台とした日常生活の「生きた」英語が学べます。その他に、国民の人気漫画「サザエさん」の『対訳サザエさん』(長谷川町子, 講談社インターナショナル刊)などがあります。4コマ漫画活用の利点として、以下のことが考えられます。

① 日常よく用いられる語彙や表現

何と言っても日常生活で起こりうる身近な表現の宝庫となっています。また、教科書には出てこない相槌表現、擬態語、擬音語、豊かな感情表現をたくさん学ぶことができます。

② 親しみやすく楽しい内容

中学生の年代は漫画が大好きです。その大好きな漫画を通して英語を楽しく学ぶことができます。

③ 豊かな自己表現力

自分の思いや考えを漫画に投影させることによって、自己表現の抵抗感を取り除き、漫画の主人公になり代わって思う存分、自分の夢や主張を自己表現できるようになります。

④ 着想や創造力の高まり

英語の創作4コマ漫画に取り組ませることによ

て、読み手を楽しませるために、ストーリーの展開や題名、そして4コマの場面構成についてよく考え、“アッ”と言わせる「オチ」で締めくくろうとするなど、英語を通して創造力を養うことができます。

次に、4コマ漫画の授業での使い方について紹介します。題材を選ぶ際の留意点として、語彙、文型・文法はなるべく既習のものであることが望ましいです。漫画の内容、特にトピックや「オチ」が中学生に理解可能であり、興味をひくものであることが重要なポイントとなります。

次に、筆者が前勤務先(神戸大学発達科学部附属住吉中学校)で行った、授業での4コマ漫画の活用の実例を紹介します。日々の授業の中で、投げ込み教材としても活用できますが、おもに「選択教科の時間」で取り組ませていました。

まず、楽しく読むことから始めます。起承転結の展開を意識しながら、最後の「オチ」を楽しめるように読解を進めます。次に、吹き出しを空白にしたイラストだけの4コマ漫画と、ランダムに並べた英文とのマッチングを行います。次の段階として、吹き出しの最初の1コマ目だけを与え、残りのコマを創作させ、原作と比較してみて、類似点や相違点を確認します。時には原作を上回る作品も出てきます。さらに、発展的な活動として、全くの自由展開である創作4コマ漫画に取り組ませることもできます。

4コマ漫画は、場面やコンテキストを大切にしておき、日常的な表現を用いているので、英語授業での活用によって、本格的なクリエイティブ・ライティングへの橋渡しとなり、実践的コミュニケーション能力の育成にとっても有効であると考えます。

「三省堂ワードワイズ・ウェブ」のご案内

Sanseido Word-Wise Web (URL <http://dictionary.sanseido-publ.co.jp/wp/>)

三省堂ワードワイズ・ウェブは、株式会社三省堂の辞書出版の最新情報をお届けするウェブサイトとして、2004年10月にオープンしました。その後、2007年8月にリニューアルを行い、RSS フィード(サイトの更新情報をデータ配信する仕組み)の機能や、多彩な執筆陣による連載など、機能面、内容面ともに大幅に充実、多くの読者にアクセスしていただいております。

当ウェブサイトは、小社発行の国語辞書・英語辞書・諸外国語辞書に関連するポータルサイトとしてご利用いただけます。ご希望の辞書を探し、必要であれば、ウェブショップでのご購入もできます。

日々、ことばと辞書周辺の役に立つ情報や、連載コラムを掲載しています。

ぜひ、一度お立ち寄りください。

【連載一覧】…ことば・文字・辞書に関する話題について、多彩な著者陣が連載しています。

- ・「WISDOM in Depth」(『ウィズダム英和辞典』編者・編集委員)
- ・「英語辞書攻略ガイド」(関山健治さん)
- ・「学習者コーパス入門」(阪上辰也さん)
- ・「ウェブコーパス徹底活用」(たつをさん)
- ・「勉強工学— Web 時代の学習法」(増井俊之さん)
- ・「社会言語学者の雑記帳」(松田謙次郎さん)
- ・「サイバン語と日常語の間—法廷用語言い換えコトハジメ」(法廷用語の日常語化に関するプロジェクトチーム)
- ・「地域語の経済と社会—方言みやげ・グッズとその周辺—」(言語経済学研究会)
- ・「『三省堂国語辞典』のすすめ」(飯間浩明さん)
- ・「人名用漢字の新字旧字」(安岡孝一さん)
- ・「漢字の現在」(笹原宏之さん)
- ・「クラウン独和辞典—編集こぼれ話—」(『クラウン独和辞典』編修委員)
- ・三省堂『中国故事成語辞典』から「今週のことわざ」
- ・「明日は何の日」
- ・「時候のあいさつ」
- ・「季節のことば」

TEACHING
ENGLISH
NOW

13号

2008年
9月10日発行
定価 80円
(本体 76円)

編集・発行人：八幡統厚
発行所：株式会社三省堂

〒101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14

電話 (03) 3230-9422 (編集)

振替 東京 00160-5-54300

[NEW CROWN ホームページ]

<http://tb.sanseido.co.jp/newcrown/index.html>

印刷：三省堂印刷株式会社

〒192-0032 東京都八王子市石川町 2951-9

電話 (0426) 45-6111 (代)

編集後記

三省堂は、Web「三省堂英語教科書・教材 SANSEIDO ENGLISH」(URL <http://tb.sanseido.co.jp/english/newcrown/index.html>) にて、今後も、授業をサポートする資料(年間指導計画表、ワークシートなど)や英語教育に関する情報(コラム、研究会情報など)を掲載していきます。

斎藤栄二 著

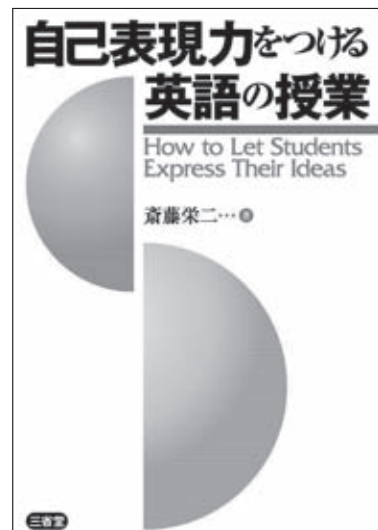
自己表現力をつける英語の授業

2,100 円 (税込) 四六判 192 頁 ISBN 978-4-385-36353-0

自己表現の語彙の増やし方, 質問作成能力のつけ方, Discussion の仕方, Read and Look up の仕方など, 実践を踏まえてやさしく具体的な手順を示す。好評の前著『基礎学力をつける英語の授業』の続編。

目 次

- 第 1 章 英語教育の未来像を描こうではないか
- 第 2 章 生徒が自己表現に使う語彙をどう増やすか
— Caption Method のすすめ —
- 第 3 章 自己表現力をつけるためには, 何をさせたらよいのか
— 日本人学習者の質問作成能力について検討する —
- 第 4 章 自己表現力をつける
- 第 5 章 Discussion 初級編
- 第 6 章 Imitation Method
- 第 7 章 ペーパーを読み上げないでスピーチ活動をさせるには
→ Read and Look up 方式
- 第 8 章 対話: 英語教師の「授業力」を育てよう



ELEC 同友会英語教育学会 実践研究部会 編著

中学校・高校 英語 段階的スピーキング活動 42

2,415 円 (税込) B5 判 208 頁 ISBN 978-4-385-36355-4

「インタビュー活動」「スピーチ」「チャット」「ディベート」「レポーティング」など, スピーキング活動についての指導技術や 42 の事例を紹介。中学校から高校までを見据えた計画のもと, 既習の知識を活用して「話す」力を育む授業ができる。

目 次 (一部抜粋)

第 1 部 技術・理論編

- ・ペア・グループ編成
- ・スピーチにおける話し手への指導
- ・スピーチにおける聞き手への指導
- ・スピーチの原稿指導
- ・レポーティングの指導
- ・指導したい会話技術一覧
- ・ディベート
- ・ディスカッション
- ・視聴覚機器の活用

第 2 部 指導編

- ・ 1 文加えて答えよう
- ・ 自己紹介をしよう
- ・ 私の好きな有名人
- ・ はじめてのチャット
- ・ 身近な人を紹介しよう
- ・ ある日の出来事
- ・ 夏休みの思い出
- ・ 意見を述べよう
- ・ 理由を述べよう
- ・ 目的を述べよう
- ・ 10 年後の私
- ・ My Treasure
- ・ Survey & Report
- ・ 30 秒コマーシャル
- ・ Speeches & Comments
- ・ My Dream
- ・ Balloon Debate
- ・ My Opinion …他



クラウン総合英語

採択No.1教科書CROWNの代表著者が編集した

最強の総合英語!



霜崎 寛 [編著] A5版/616頁 1,523円(税込)

- 基礎から発展まで重要項目を網羅。
- 導入編・基礎編・発展編の3段階構成。
- 興味深い例文,わかりやすい解説。
- 理解をさらに深める豊富なコラム。
- 見やすく,使いやすいオールカラー。
- 大学受験に,TOEIC・英検対策に最適。

語法・受験に強い!
現代英語に強い!

WISDOM

しかも,進化するウェブ辞書が無料で使える!

ウェブ版英和は全見出し語にネイティブ・スピーカーの音声付き。また,英和・和英ともに,教材作成・英作文に便利な新ツール「用例コーパス」を装備(一般公開中)。

詳しくは, <http://www.dual-d.net/>へ。

ウィズダム英和辞典 第2版

井上永幸・赤野一郎 [編]

[並装] 3,465円(税込) [革装] 5,250円(税込)

ウィズダム和英辞典

小西友七 [編修主幹]

[並装] 3,465円(税込) [革装] 5,460円(税込)



三省堂

<http://www.sanseido.co.jp/>

□本 社 〒101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14 TEL. 03 (3230) 9411 (編集案内)・9551 (営業)
TEL. 03 (3230) 9422 (英語教科書編集部)

□大阪支社 〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地 2-5-3 TEL. 06 (6341) 2177

□名古屋支社 〒460-0008 名古屋市中区栄 3-25-43 瑞穂ビル 4F TEL. 052 (252) 9211・9212

□九州支社 〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-1 TEL. 092 (531) 1531・1532

□札幌営業所 〒060-0042 札幌市中央区大通西 15-2-1 ラスコム 15ビル 2F TEL. 011 (616) 8722